

創世記63 創世記49章8節～18節

「ユダ、ゼブルン、イッサカル、ダンの将来」

イントロ：

1. 文脈を確認する。

(1) エジプトに移住してからヤコブは17年間生きた。

(2) 死を前にヤコブは、息子たちの将来を預言する。

①創始者の性質が部族の性質となる。

(3) 預言の順番は誕生の順ではない。

①レアの3人の息子、ルベン、シメオン、レビ

②レアの残りの3人の息子、ユダ、ゼブルン、イッサカル

③ビルハの息子、ダン

④ジルパの2人の息子、ガド、アシエル

⑤ビルハの息子、ナフタリ

⑥ラケルの2人の息子、ヨセフ、ベニヤミン

(4) この預言は聖霊によるものである。

①射程距離が長い。

②黙21：12

「都には大きな高い城壁と十二の門があって、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあった」

(5) 預言の内容は2つである。

①土地の分割

②メシアの家系

2. メッセージのアウトライン

(1) ユダ (49：8～12)

(2) ゼブルン (49：13)

(3) イッサカル (49：14～15)

(4) ダン (49：16～18)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

(1) 契約の神の守り

(2) 相続財産の約束

(3) 特に、「人生の本質」について考える。

このメッセージは、人生の本質を考えるためのものである。

I. ユダ (49: 8~12)

1. 祝福の預言が初めて出てくる。

- (1) ルベン、シメオン、レビの場合は、呪いの言葉で終わっていた。
- (2) ユダになって初めて、祝福の言葉となる。

2. 5つの祝福

(1) 12部族の中での優位性

①「ユダよ。兄弟たちはあなたをたたえ」(8節)

*「ユダ」とは「たたえる」の意味。

*意識すると、「称賛よ、兄弟たちはあなたを称賛する」となる。

*創29:35でレアは、ユダのゆえに神をたたえた。

*神をたたえる人は、兄弟たちからたたえられるようになる。

②「あなたの父の子らはあなたを伏し拝む」(8節)

*民2:9 ユダ族は186,400人で、群れの先頭を進む。

*民10:14 荒野での行進で、先頭に立つ。

*士1:1~2 カナン人との戦いの先鋒となる。

(2) 敵に対する勝利

①「あなたの手は敵のうなじの上にあり」(8節)

*Ⅱサム22:41 ダビデの歌

*詩18:40 同様の歌

(3) 最強の部族

①ライオンのイメージでその力が描かれている。

*獲物に襲いかかる力

*平安の内に伏す堂々たる姿

(例話) 優勝を決めてガッツポーズをする朝青龍

②異邦人の預言者バラムの預言。民24:9

(例話) アリエル・ミニストリーズのアリエルは「神のライオン」の意味。

(4) 王権

「つえはユダを離れず、／立法者のつえはその足の間を離れることなく、／シロの来

る時までには及ぶであろう。もろもろの民は彼に従う」(10節)(口語訳)

①「つえ」とは「王権」(新改訳)、「王笏」(新共同訳)。

*ダビデ以来、バビロン捕囚までユダに王権があった。

*初代王サウルは、神の計画外の人物であった。

*王を求める動機と、タイミングが間違っていたのである。

②「立法者のつえ」とは「統治者の杖」(新改訳)、「統治の杖」(新共同訳)

*バビロン捕囚以降、敵に統治されたが、内部の統治者はユダ族である。

③「シロの来る時までには及ぶであろう」

*「シロ」とは所有代名詞。「統治権がその人にあるお方」という意味。

*メシアの称号である。エゼ21:27参照。

*ユダ族から出たメシアによって、統治権は世襲の必要がなくなる。

④「もろもろの民は彼に従う」

*「もろもろの民」とは、異邦人諸国のことである。

*究極的な成就是、千年王国において起こる。

(5) 物質的豊かさ

①太くて大きなぶどうの木なので、ろばをつなぐことができる。

②量が多いので、良いぶどうの木に「雌ろばの子」をつないでも平気である。

*メシア預言の中に「雌ろばの子」が登場する。

③ぶどう酒の生産量が多い。

④裁き主としてのメシア。イザ63:1~6、黙14:17~20

⑤ぶどう酒と乳製品の豊かさが預言されている。

II. ゼブルン (49:13)

1. 領地は海辺になる。

(1) ゼブルン族の領地はくじで決められた。ヨシ19:10~16

(2) ヤコブの預言が聖霊によるものであることが分かる。

2. 実際の領地は海に面していない。

(1) アシエル族が海沿いの領地を得た。

(2) ナフタリ族がガリラヤ湖沿いの領地を得た。

(3) 海沿いの道(ヴィア・マリス)がゼブルンの領地を貫通していた。

①海洋貿易による富を得る部族となる。

(4) 千年王国では部族の領地が変更される。その時にこの預言は全面的に成就する。

①エゼ48:26

3. その後のゼブルン

(1) 士5:18

「ゼブルンは、いのちをも賭して死ぬ民。野の高い所にいるナフタリも、そうである」

(2) ダビデを王に担いだ人々の中に、ゼブルン族の人々がいた。I歴12章。

(3) イザ9:1

「しかし、苦しみのあった所に、やみがなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は、はずかしめを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダン川のかなた、異邦人のガリラヤは光栄を受けた」

(4) マタ4:13~17

①ナザレはゼブルンの地にある。

III. イッサカル (49:14~15)

1. 長所と欠点あり。

(1) 長所: たくましい

①民26:25では64,300人→I歴7:1~5では87,000人

(2) 欠点: 怠惰で楽な生活を好む。

2. イッサカル族の行動の4段階

(1) 労働よりも休息が好ましい。

(2) 美しい地を与えられる。

①イズレエルの谷 ヨシ19:17~23

②そこで農業をする。政治や戦争とは距離を置く。

(3) 指導者に従う労働者になる。

①肉体的に強いので、重荷を担ぐことができる。

(4) カナン人に仕えるようになる。

①楽な生活を得るために自由を犠牲にする。

IV. ダン (49:16~18)

1. ダンは「かぼう」「裁く」という意味。創30:6にあるラケルの言葉。

(1) 士師のサムソンは、ダン族から出た。

2. ダン族は12部族の中に数えられるが、最後に登場することが多い。

- (1) 民10:25 全宿営の後衛
- (2) 黙7 12部族から救われる144,000人の中にはダン族の中が出ていない。
- (3) ダン族が消滅することではない。千年王国に住む。エゼ48:1~2、32。
- (4) ダン族はゲリラ戦の戦士である。

4. ダン族の救いが預言される。

- (1) 偶像礼拝に陥る民(金の子牛)。士18:1~31、I列12:28~30
- (2) イスラエルの民族的救いの中にダン族も含まれる。エゼ48:1

結論: このメッセージは、人生の本質を考えるためのものである。

はじめに

- (1) 先週の番組収録の証し
- (2) 番組の最後のショートメッセージ

前川正が堀田綾子(当時)に語った言葉にこういうものがある。

「綾ちゃん、人間はね、一人一人に与えられた道があるんですよ……ぼくは神を信じていますからね。自分に与えられた道が最善の道だと思って感謝しているんですよ……」

- (3) 三浦文学の神髄は「道ありき」という言葉に要約される。

1. イエス・キリストこそ道であるという認識

- (1) ヨハ14:6
- (2) 創3:15の原福音で、「女の子孫」が預言されていた。
- (3) セツ、ノア、セム、アブラハム、イサク、ヤコブ、ユダとつながってきた。

2. 自分にも道が用意されているという確信

- (1) 道であるお方を信じた結果生まれてくる確信である。

3. その道を歩けば、神の守りと祝福があるという体験

- (1) 三浦光世さんは、人生を振り返って「主の山に備えあり」とまとめられた。
- (2) 認識から確信へ、確信から体験へ、これが「道ありき」の人生である。